

【基本情報】

施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)
障害者支援施設
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】
56.0人

(1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: ☒ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☐ 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) 移動式リフト EL-610(3台)

(2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D/A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	27 人	13,950 件	167,400 件	10 分	753,300 人時間	1,033 時間
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			13,950 件	167,400 件	10 分	753,300 人時間	#DIV/0!

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援
※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

・2F・3F・4Fフロア共に対象者(各フロア平均5名)の方のところへ朝食、昼食、夕食時に職員2名で行きベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗を行う。6回/1日
・入浴、トイレ誘導時、ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗介助4回/1日行う。発生件数(15人×10回)/1日×31日=4650回×3フロア分=13950回

<※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

・走行リフトで移乗する対象者のところへ2名で行く。ベッド上におられる対象者の方にスリングシートをつける。スリングシートをリフトに取り付け職員2名でベッド上から車いすへ移乗する。その後車いすに移乗された対象者からスリングシートを外し体制や衣服を直す。車いすからベッドへの移乗も同様。これらの一連の動きに10分程度かかる。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D/A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	14 人	13,950 件	167,400 件	10 分	390,600 人時間	1,993 時間
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			13,950 件	167,400 件	10 分	390,600 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

・2F・3F・4Fフロア共に対象者(各フロア平均5名)の方のところへ朝食、昼食、夕食時に職員1名で行きベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗を行う。6回/1日
・入浴、トイレ誘導時、ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗介助4回/1日行う。発生件数(15人×10回)/1日×31日=4650回×3フロア分=13950回

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

・走行リフトで移乗する対象者のところへ1名で行く。ベッド上におられる対象者の方にスリングシートをつける。スリングシートをリフトに取り付け職員1名でベッド上から車いすへ移乗する。その後車いすに移乗された対象者からスリングシートを外し体制や衣服を直す。車いすからベッドへの移乗も同様。これらの一連の動きに10分程度かかる。

年間業務時間数想定削減率(%)

48.1%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

・移乗業務にかかる時間は変わっていないが、いままで常に2名の職員でかかわっていた業務が、1名で行えるようになった。理由として、今までのリフトは方向転換の時の動きが重く、小回りが利かないため1人で操作するのが難しく、リフトの構造上1名が対象者の足元について足を押さえておかないと対象者の方の足がリフトにぶつかり危険であった。新しいリフトではそのようなことが解消されたため、1名での対応が可能になった。それゆえ20%を超える削減率につながった。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

・対象者の方を職員1名でも安全に移乗することが可能になった。又、これまで常に2名でかかわっていた移乗介助が、大部分で1名での対応が可能となったことで、他の業務の応援や、ご利用者と関わる時間にも余裕ができてきた。新しいリフトは操作もしやすく、動きも小回りが利き、ご利用者、職員ともに心身の負担軽減につながり効果を発揮している。同じ型のリフトを揃えたため、フロアが違う職員が応援に来た時など使用方法などに迷うこともなくなった。

(5)今後の課題

・介護分野だけではなく、安芸高田市は特に人材確保が難しくなっている。特に看護師、ケアワーカーは今後さらに難しくなっていくことが予想される。それゆえ、看護師、ケアワーカーの心身の負担を少しでも軽減し、働きやすいまた離職が少なくなり長く勤めてもらえるような施設にしていかなければならない。その一環として設備を充実させていく、また長年先輩方が築いてきたこともいいところはそのまま受け継ぎ、変えていく必要があるところは変えていくなど現状を再度見直していかなければならない。日々の業務に追われ、そういったことがなかなか進んでいないことが課題である。

(6)気づき等について

・とにかく現場から「使いやすい」「負担が少なくなった」などの声がある時は、本当に導入してよかったと感じる。シンプルで使いやすく、ご利用者にも職員にも負担が少なくなる設備を今後も導入していければと思います。